

きんげんだい
近現代

今回は、展示されている資料の中から2つにしぼってご説明いたします。

近現代とは、明治時代から昭和にかけてをさしています。この時代の主な展示資料には、戊辰戦争時の官軍の墓(写真)や写真で見る相馬(写真)などがあります。中央からもたらされた近代文化や工業の導入が町の様相を大きく変えてきました。明治・大正・昭和・平成と現在に続く歴史の中で人々は相馬を創り続けています。

Q 戊辰戦争の維新政府軍とは、どこの藩が関わっていたのでしょうか？

Q 昭和の写真が5枚ありますが、いまのどの場所の写真か考えてみましょう？

官軍の墓(戊辰戦争時)・・・江戸時代の終わりから明治時代の初め、戊辰戦争という戦いが行われました。1868(慶応4年)戊辰の年1月から翌年5月にかけて、維新政府軍と旧幕府派との間で行われた内戦です。鳥羽・伏見の戦い、上野の彰義隊の戦い、会津戦争、箱館戦争などが繰り広げられました。相馬中村藩は、5月3日奥羽越列藩同盟結成に加わり、官軍と戦いましたが、8月7日以降、中村が官軍に占領され、(参考資料・戊辰戦争の跡)その後官軍として戦うという境遇にありました。官軍の墓(戊辰戦争時)は、興仁寺(宇多川町)などにあり、この戦いで亡くなった広島藩士などが葬られています



官軍の墓(戊辰戦争時)

写真でみる相馬・・・明治時代の廃藩置

県で相馬には、^{なかむらけん}中村県がおかれその

後、^{たいらけん いわさきけん}平県、磐前県をへて福島県とな

りました。1889(明治22)年の

^{ちょうそんせいしこう さい}町村制施行に際しては、中村、中野
村、西山村の合併により中村町となり

(1929(昭和4)年には^{まつがえむら}松ヶ江村を合

併)、さらに1954(昭和29)年に^{なかむらまち}中村町、^{おおのむら}大野村、^{いいとよむら}飯豊村、^{やわたむら}八幡村、^{やまかみむら}山上村、^{たまのむら}玉野村、^{にったきむら}日立木村、

^{いそべむら}磯部村の一町七村が合併し相馬市制の^{しこう いた}施行に至りました。本資料で、現在の相馬の町並みとくらべてみてください。



昭和30年代の相馬市役所



昭和29年ころの市街地
手前が二の丸球場、その上が旧中村第一中
学校となります。



中村駅(現在の相馬駅)
昭和36年に相馬駅と改称されるまで、中村駅
の名で親しまれていました。



旧相馬警察署
現在の保健センターに建っていました



大町通り
昭和のはじめころの通りの風景がおさめら
れています。